

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
572	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名（原題／訳）</b>	
<p>Gender specific trends in alcohol use: cross-cultural comparisons from 1998 to 2006 in 24 countries and regions.</p> <p>アルコール摂取における性差による傾向：24の国と地域における1998～2006年の異文化の比較</p>	
<b>執筆者</b>	
Simons-Morton BG, Farhat T, ter Bogt TF, Hublet A, Kuntsche E, Nic Gabhainn S, Godeau E, Kokkevi A; HBSC Risk Behaviour Focus Group.	
<b>掲載誌（番号又は発行年月日）</b>	
Int J Public Health. 2009 Sep;54 Suppl 2:199-208.	
<b>キーワード</b>	
アルコール 酩酊 思春期 傾向 国際間 性差	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b></p> <p>20のヨーロッパ諸国、ロシア連邦、イスラエル、アメリカ合衆国、カナダにおける15歳の1カ月のアルコール摂取の普及率と生涯の酩酊についての傾向について調査した。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>アルコール摂取の普及率と酩酊は1998,2002,2006の各国によって実施された学童期の調査の健康行動で評価された。傾向は、Cochran-Mantel-Haenzel テストによって決定された。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>全ての国の平均アルコール摂取量は、45.3%から43.6%に減少し、酩酊は37.2%から34.8%に減少していた。アルコール摂取と酩酊には、国によってはかなりの違いがあった。ある国では減少していたが、ある国では増加、あるいは変化がなかった。全体的な減少は少年の41.2%から36.7%であり、少女の33.3%から31.9%より多かった。飲酒や酩酊が増加している国の大部分は、主に少女の増加であった。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>アルコール摂取と酩酊の傾向は、国によってさまざまであった。飲酒や酩酊は少女よりも少年のほうが高い割合を示しているが、少年と少女の間の相違は減少し、いくつかの国では少女が少年に追いついてきている。</p>	